



発行者
松野 明久
発行所
関東あまたか会
事務局 E-mail
akimatsuno@mac.com
☎ 090-3272-4383

追悼

松尾さん、安らかにお休みください

4月25日、関東あまたか会

長、松尾和幸さんが入院先の病院で息を引き取られた。4月初旬に体調を崩して入院され、そのまま回復されなかった。3月29日の観桜会では元気な様子だったので、それが松尾さんとは、誰も想像していなかった。

救援と平和構築

松尾和幸さんは荅北町富岡出身の16回生(昭和39年、1964年卒)で、高校ではバレー部に所属。防衛大学校を卒業して自衛官となり、雲仙普賢岳噴火後、阪神・淡路大震災後の救援活動に従事され、退官後もカンボジアで地雷除去を行うNPOのボランティア活動に邁進された。仕事上、松尾さんとも近かった福田いく子さん(高20)によると、几帳面な仕事ぶりで、後輩をよく面倒みていたので、部下に尊敬され、慕われていた。

松尾さん、ありがとうございます！

松尾さんは平成23年(2011年)に第9代会長に就任し、令和2年まで務め、令和7年1月より、第10代会長の熊本への転居に伴い、1年限りとの約束で再び会長を引き受けていただいた。

松尾さんから渡された役員一覧で自分が副会長になっているのを見てびっくりしたという星野悦子さん(高18)。故金子洋志さんに「会のために協力しなければ」と言われ、気付くと15年が経っていたという。儉約を旨とし、1日かかる発送作業も文字通りの手弁当。せめてコンビニ弁当とお茶ぐらいはと交渉し、出るようになったとか。作業は大変だったが、回を重ねるたびに参加者の絆は深まり、楽しくなっていたという。

松尾さんときどきカラオケに行っていた倉田蕃造さん(高16)。「故郷を想い、その山河にかかわる歌等が多かった、あの通る声かもう聞けないと思うと寂しい限りだ」と語る。(まとめ松野)

信頼される学校を目指して

熊本県立天草高等学校校長 岩崎 毅 (高38)



ましては、ご健勝のこととお喜び申し上げます。

また、平素から本校の教育活動にご理解とご支援を賜り感謝申し上げます。本校校長として二年目を迎え、なお一層身の引き締まる思いで毎日を過ごしているところです。

さて、学校の様子について、この場をお借りしまして、近況のご報告をさせていただきますと存じます。

まず、今春の進路状況については、卒業生徒数は近年で最も少ない184名でしたが、国公立大学のほか、私立大学、専門学校への進学、地元天草市役所を始めとする公務員への就職など、一人一人が最後まで粘り抜き、それぞれ夢の実現へ着実な一歩を踏み出したところでは、特に、大学進学においては、大阪大学などの難関大学をはじめ、熊本大学19名合格など、卒業生の約4割となる73名が現役で国公立大学へ合格するという過去最高の合格率を達成しました。

ところで、本校開校以来、本校の売店として本校を支えてくださった「おかべ学盛堂」が、この3月末をもって閉店されました。そこで、創業の岡部龜太郎さんから孫の多苗さんまで三代にわたる本校へのご支援に対して、感謝の意をお伝えする会を生徒会主催で実施しました。

また、学習活動では、SSH研究指定関連において、九州大学研究や熊本大学による連続講義のほか、シンガポールや台湾など海外研修、関西研修などのほか、各種コンクールへの参加、地元天草市と連携した環境保全活動など様々な探究活動を行いました。昨年度は、研究指定二期の3年目(通算8年目)にあたり、文部科学省から取組状況の中間評価を受けましたが、評価対象の40数校のうち全国最上位の評価を受けることができました。

さらに、部活動では、3月末に行われた第29回全日本中学生・高校生管打楽器ソロコンテストにおいて、2年(現3年)の佐佐木連斗さんがアルトサクソフォン部門で、熊本県高校生初となる優勝(文部科学大臣賞受賞)の快挙を成し遂げるなどの活躍が光りました。

また、男子ソフトボール部が、昨年の国民スポーツ大会に県代表として4名が選出され準優勝に大きく貢献したほか、春季大会で準優勝、県の高校総体では3位入賞という活躍ぶりでした。同じく高校総体では、水泳部が九州大会、陸上競技部が南九州大会への出場権を獲得しました。

それから、本年度も新入生に対し校歌と旧職員の山並兼武先生の功績と教えについて、昨年同様校長講話を先日行いました。すると昨年同様に約6割の生徒が、山並兼武を見たことがあると挙手をしました。先輩方によつて引き継がれている「山並精神」を継承していつて欲しいと、生徒や職員に対して伝えました。

本校は、今年で創立130年目を迎えます。急激な少子高齢化の進む天草ではありますが、地域の子どもたちにとって「天高で学びたい」「天高があつて良かった」と思ってもらえるよう、そして、同窓生や旧職員の皆様にしつかりと良いご報告ができるよう、生徒、職員一丸となつて励んで参る所存ですので、引き続きご支援を賜りますようお願いし、ご挨拶とさせていただきます。

卒寿を迎えて

松尾 尚(高7)



この度、関東あまたか会より、卒寿を迎えての感想の寄稿依頼を

いただきました。これまでのいろいろなことがあり、迷いました。が、生まれてから今日まで仕事以外で一番活動していることを記したいと思います。

私は佐世保生まれで、8才まで長崎市内の竹の久保町に住んでいました。長崎には大きな造船所があるとのことで、学童疎開が始まり、母の里である天草に1945年6月頃、母と子ども4人で疎開しました。父は仕事の関係で長崎市内の山里町の親戚の家に住んでいました。

8月9日に長崎に原子爆弾が落とされ、父との連絡がとれなくなり、1週間程して母に連れられて長崎に行き、爆心地の中心を歩いて放射能を浴び、入市被爆者になりました。父は家の中で焼けて亡くなりました。被害状況の詳しいことは省略します。

時は経ち、親戚の紹介で柏に

就職。60才の定年まで働きました。柏市に広島と長崎で原爆を受けた被害者の会があると聞いて平成2年に入会しました。会員数が65名とその多さにびっくりしました。

学校と柏市の依頼で市内の小学校に原爆体験の講話を行うことになり、多い年は10校の6年生に伝えました。令和6年度は5校に行き、2校から感想文が送られてきたので、感想文集を作成し、卒業祝いに贈呈しました。

戦争と原爆の残酷で悲惨な出来事を後世の人達に伝えていかねばという思いで続けています。今年で終戦80年になり、風化されないようにと。

私はこれまで長崎の原爆記念式典に2回、広島の式典に1回、会場で折った千羽鶴と市長のメッセージを持参し、参列しました。

卒寿を前に思うことは、当たり前ですが、健康で周りに迷惑をかけるない、無理しないで、少なくとも100年時代ですが、どこまで行けるかな???

米寿を迎えて

秋田 健二(高9)



米寿を迎えるに当たっての感想です。今までの傘寿等の祝い事より米寿は非常に

うれしい。それに「年を取ったなあ」、「長生きしたなあ」との実感をつくづく感じています。又、米寿を一緒に迎える仲間がいま

10名程で途中脱落することなく頑張ってきましたので、その同窓会について簡明に述べます。

9回生は高度成長のはしりの頃に卒業し、関東6県に就職等で約80名が来ていました。それから70年、同窓会の出席者も高齢化と共に減少しましたが、多数はまだ存命中。それと人生100年と言われるように平均年齢が長くなり、米寿を迎える仲間が増えました。

同窓会もスタート時期は仲間を集めるのに苦労し、又、幹事を6県の順番制とし、盛り上げるため県の観光地での開催等で会の充実を図りました。県の順番制が終わ

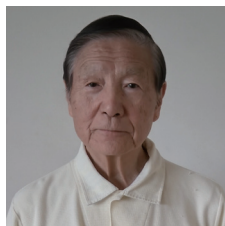
ると、全体をまとめる幹事が必要ですが、個人対象の順番制は止め、人の世話をいやがらず、人のために役に立ちたいと思っている人をお願いし、存続しています。

又、同窓会は会話をするのが主な目的ですので、個々の会話、テールスピーチがありますが、スピーチを嫌がる人も少しでもよいからしゃべって貰うことが大切です。以上、参考までに!

少なくとも残りの余命、故郷の夢を見ながら穏やかに暮らせたらと願っています。

傘寿を迎えて

松下 庄治(高17)



傘寿を迎えるにあたって、これまでを振り返ってみる。

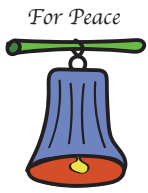
大学4年就職活動時期、流通革命がマスクミに頻繁に取り上げられ、イオン(当時ジャスコ)に入社。当時、スーパー業界では1位ダイエー、2位西友、3位イオンでダイエーが圧倒的な勢力を誇示していた。ダイエーがメーカー価格をぶつ壊すと声高らかに宣言して価格

競争を仕掛けプライベートブランドの展開に力を注いでいた頃

だ。当時はスーパーの隆盛期で出店に次ぐ出店で毎年2桁の出店1年次の時年に6回転勤、退職するまでに仙台以北の東北・北海道・北陸・山陰以外、ほぼ全国を転動した。昨年、イオン上場50周年の式典が開催され感慨を新たにされた。

私は埼玉県で初の大型SC(ショッピングセンター)浦和美園SCとレイクタウンの開設を経験。特に、レイクタウンはJR武蔵野線の越谷レイクタウン駅が新設され、駅に直結した大型SC。赤土の広大な平原で全く何も無い大地にSCが建設されていく様は本当に感動もの。もう定年退職して13年経つが未だにイオンへの関心が深い。

さて、傘寿は通過点との認識を持ち今後大切にしたいことはまず健康、スポーツジムに通いウォーキングを続けること、会社OB会活動レクレーション活動を楽しむこと、同期会に積極的に参加し楽しむこと。今年も少し早い4月に傘寿の集いが開催され皆で語り合い、楽しいひと時を過ごした。これから同期会を楽しみたいと思う。



長寿祝



ちよつと早めの「天高 はたち会喜寿同窓会」 に参加して

安斉 きみ子(高20)



4月13日(日)、天草市のサンタカミングホテルで、天高

20回生の同窓会が69名の参加者で盛大に開催されました。東京や大阪から駆け付けてくれた方もいました。今回は最後の同窓会になるかもしれないという主催者の御挨拶がありました。会場のあちこちから2年後に又やろうとの声があがりました。

私は天草での同窓会の参加は2回目ですが、今回は天草住民として参加しました。昨年の7月に有明町に東京の多摩市から転居しました。実家は五和町です。

天草を離れて56年ぶりの故郷での暮らしで、まるで「浦島太郎」みたいでしたが、高校時代の親しかった友人たちと声を交わすことができました。あちこちで「久しぶりね」の声を聞くと、やはり同窓会という場があったからこそだと監事さんに感謝しました。

おめでとうございます 今後もご活躍ください



作品展示会には「書」「詩集」「絵手紙」「創作人形」など飾られ、また入り口には参加ができなかった方たちのハガキが紹介されていたため、熱心に一枚一枚読んで友人どうしで歓談する姿が見られました。

出し物、余興も素晴らしい！歌、尺八、日舞、10人の踊り手とちよつと怪しい？ウクレレ奏者。拍手と笑い声につつまれました。

自己紹介では病気をした方、仕事やボランティアに励んでいる方、孫のお世話をしている方、のんびり過ごしている方、様々でしたが、75年の年月には多様な人生の重みを感じました。元気で又会いましょう！



本多久美さん

古希を迎えて

趣味を楽しむ

桑原 洋一(高27)



故郷を離れ上京して半世紀、古希を迎えたい。振り返るとそれなりに苦勞もあつたが、周りの人に支えられてここまでこれたことに感謝している。一方、これといった趣味や自分磨きに力を注いでこ

なかつたことが悔やまれる。50代半ばごろから妻には辞めた後の過

ごし方を考えていた方がいいわよと言われ続けていたが、なかなか手をつけてこなかったのだ。

このため退職のゴールが見えてきたころからチャレンジしてきた。①カラオケを楽しむー90点超えを目指して歌のレッスンに通い歌唱力アップに務めたので、ちよつとは上達したと思う。AIの助けを借りつつ引き続き高みを目指す。②プラモを楽しむーバイクのプラモデルを数台購入し組み立てる。図面を見ながら格闘するのは楽しい。タミヤのプラモの素晴らしさを再確認するも完成品の置き場に苦慮している。③ゲームを楽しむー任天堂スイッチソフトを購入。ボケ防止の効果を期待しているが、あちこち彷徨ってなかなか先に進めない。④楽器を楽しむー楽器は準備した。練習はこれからだ。⑤絵を楽しむー取り敢えず妻の色鉛筆とぬり絵の本でまずは練習する。⑥料理を楽しむー料理当番のノルマが課せられるので、料理番組を見て調理する。YouTubeの動画はとて

も参考になる。といったところだ。

古希の紫色は、高貴さや尊厳の象徴、成熟と知性を表すといわれる色であるが、あれもこれも中途半端な自分に重ね合わせると畏れ多い。一つでも人前で自慢できるように楽しみたいと思つて

あなたのパーソナルホテル

天草プラザホテル
〒863-0022 天草市栄町4-8
TEL 0969-23-5511 / FAX 0969-23-5588
まちのコミュニティホテル

プラザホテル アネックス
〒863-0032 天草市太田町16-1
TEL 0969-23-3000 / FAX 0969-23-1240

滞在型ホテル

プラザホテル ベルメゾン
〒863-0032 天草市太田町17-3
TEL 0969-23-3000 / FAX 0969-23-1240

サテライトホテル

プラザホテル キューブ
〒863-0032 天草市太田町16-14
TEL 0969-23-3000 / FAX 0969-23-1240

<https://www.amaxa.co.jp> plaza@amaxa.co.jp

天草の海の幸を各種ご贈答にどうぞ

贈答用活車えび生産販売

有限会社 **幸福堂** KOFUKUDO

代表取締役 **松中 祐二** (高27回生) 宮野河内出身

〒863-1212 熊本県天草市河浦町宮野河内234
TEL 0969-78-0186(代) FAX 0969-78-0193
E-mail : kofukudo@gaea.ocn.ne.jp
<http://www.koufukudo.co.jp/>

Amakusa Santa Coming Hotel Bridal Plan

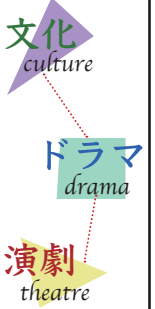
サンタスティックウェディング

ゲストのお客様と一緒に楽しみ、おもてなしを第一に考えた結婚式です。是非ご相談ください。
★プラン内容など詳しくはホームページをご覧ください。

ゲストと一緒に楽しむ結婚式を！

<http://red-happiness.com>

アマクサ サンタ カミング ホテル
〒863-0043 熊本県天草市亀場町亀川 74-3
TEL 0969-22-0100 FAX 0969-24-3472



癒す島、再生する島、私達が帰る島——NHKドラマ「トゥルー・カラーズ」

柿久 昌範(高65)



テレビから天草弁が聴こえる。幼い頃から慣れ親しんだ故郷の言葉が。

画面に広がるのは崎津集落や有明海、我が母校の天草高校など本渡の街並み。生まれ育った地で物語が展開されてゆく。

熊本県民の誇り(熊本市出身)・倉科カナさん、我が憧れのアニキ・毎熊克哉さん、世界的名優・渡辺謙さんなど、豪華俳優陣が天草の地で天草の言葉

を話している。誇らしいとも嬉しいとも違う不思議な感覚を覚える。

ファアとして順調にキャリアを重ねていた最中、生まれ持った色覚異常が進行する難病を患い、築き上げたものを全て失う。傷ついた海咲を受け入れたのはやはり故郷の天草だった。18年ぶりに帰った彼女は、否応なく父の死の真相や家族とのわだかまりと向き合うことになるが、東京パートで止まった、いや、故郷を捨てたその日から止まっていた時間が動き出すのがわかる。それだけではない。東京での海咲は見えない鎧をまとっているように思えた。色覚異常を隠しながら「色彩のディーバ(女神)」と呼ばれるまでになった彼女。信の置ける仲間の前でもプロらしく凛とした姿を保とうとし、愛人関係にある男の前では自らを俯瞰で見ると冷めたところがあった。だが帰郷後の彼女は別人だ。幼馴染の晶太郎や彼の家族の前では天草弁が自然と湧き上がり、喜怒哀楽がわかりやすく顔に出る。恩師との再会に安らぎを感じ、カメラのフアインダーを覗く目にはこれまでと違う温もりが宿る。

私自身も東京と天草とでは、自分がまるで違う人間に感じるときがある。普段は心の奥に潜む素の自分が、天草の仲間の前ではふつと顔を出す。海咲と同様に東京での自分も鎧を纏っていたこと、私のほんとうの色が浮かび上がるトリガーが天草にあることに気づく。このドラマを見た『のさりの島』の主演俳優の藤原季節さんは、天草を「心が再生する町」と呼んだ。晶太郎役の毎熊さんは、普段から季節さんと一緒になって天草の思い出話を俳優仲間としているらしい。撮影で訪れた御二人が「第二の故郷」と言って愛してくださっている。人の心を解放し、自分自身を取り戻させてくれる、皆の故郷になり得る島、天草。『TRUE COLORS』にはそれが顕著に描かれていた。また一つ、いい物語が天草で生まれた。

「フロイス—その死、書き残さず—」こまつ座公演を観劇して

吉野(森下)睦子(高27)



フロイス。フロイスという人物をご存知でしょうか。私は正直、何となく高校の日本史で学んだかなあと、いうくらいの認識しかありませんでした。ルイス・フロイスとは、日本の戦国時代にフランシスコ・ザビエルの後を受けて、長崎や京都に暮らしながら布教活動を行なったポルトガル人宣教師です。語学と文筆の才にたけており、当時の戦乱の世をまとめた『フロイス日本史』を書き残しています。当時の天草の宣教師とも書簡を交わした記録があります。私は現在、天高27回卒のLINEグループで天草関連のことを中心に情報共有をしており、その中で「ルイス・フロイス」の演劇公演があることを知りました。今年2月頃の情報でしたが、他にも天草在住の漫画家、高浜寛さん(47才)が潜伏キリシタンを題材にした連載を構想され、そのことからこの秋にはイタリアの巡礼団が天草を訪問されることになったという朝日新聞の記事なども共有しました。この時、私自身も殉教の島天草を学び直す良い機会だと思ひ、まずは「ルイス・フロイス」の演劇公演に足を運びました。

『フロイス—その死、書き残さず—』というタイトルのこまつ座の公演でした。戦乱の世で不安を抱える長崎の島民に、日本の信仰や文化、価値感の違いに戸惑いながらも最後まで寄り添い続けた宣教師フロイスの姿が描かれています。35年余りの日本での布教活動の中、フロイス自身が宗教人として、人として日本人と向き合い、迷い悩みながらも最後には「島民が自分たちと対等な存在である」ことに気づくという劇中のシーンには感動をおぼえました。慈愛に満ちたフロイスを感じるシーンでした。今は平和すぎて信仰心すらない私ですが、信仰にすがらなければ救われない時代があったこと、そしてその救いに導いてくれたフロイスという宣教師がいたことを知り、そういう歴史のうえに現在の平和な日本があるのだと痛感しました。また、この演劇は作家井上ひさし氏の小説『わが友フロイス』が原作になっており、この中に「対等なるものは、対等なるものに対して、支配権を持たず」というフロイスの言葉がありました。現代の世界のリーダー達に響いてほしい言葉のように思ひます。このフロイスの書簡のやり取りで構成されたこの小説の中には、天草の志岐に赴任した宣教師宛の書簡もあり、当時の天草の歴史や日本社会の理解し難い風習なども面白く綴られています。今回の観劇はコロナ後初めての生での観劇でしたが、同級生のLINE情報から色々な学びが広がり、ふるさと天草に思いを馳せる良き時間になりました。

私のパリ・フランス料理 修業

猪口 玄洋 (高49)



学生の時に料理の世界にはまっただから次第にフランス料理に興味を

12月30日になり、SNSを通じてワーキングホリデーメンバーで集まってエッフェル塔のカウントダウンイベントに行こうという企画に参加した。その時知り合った人たちにフランスの情報を教えてもらったり、後にもいろいろと助けてもらった。



パリ16区のボージョレ・ドートイユ

わたれて気付いたが、その年のベストビストロ賞をガイドブックで獲得していた。これは勉強になる。ラッキーだ。ボンジュールと挨拶して握手から一日の仕事が始まる。目を合わせて少しニコツとしてなければならぬ。日本人からしたら難しく、顔がひきつってしまふ。仲が良い関係だったら男女でも男と男でもビズーと言って頬を合わせている。僕はこの挨拶は最後までできなかつた。どっちの頬を出したらいいのかタイミングが難しいし、すぐく恥ずかしいからだ。

は言葉が通じない。そもそもフランス語を聞き取る事ができない。調理場でシェフに倉庫からあれを持って来いと言われても一回では正解の物は持つていけない。お互いに苦笑いだ。何かミスをした時は凄く怒鳴って顔を近づけて怒られるが具体的に何を言っているのか解らないのでそんなには落ち込まない。他のスタッフが嫌味を言っている時はだいたい顔の表情で解るがまあいいだろう。僕は天草の男だ。多少のことには動じない。フランスの修行はこうして多くの試練から始まった。

持つようになった。憧れの料理人たちは皆フランスに渡って修業しているではないか。ならば行くしかない。自分のこの目で見てみたい。猪口だけに猪突猛進型のぼくは決めたらつき進むのみだ。いざフランスへ。

2009年12月31日、ぼくはパリのシャルル・ド・ゴール空港に着いた。外はちらちらと雪が降っていた。夕方を過ぎて辺りは暗くなるうとしていた。とうとう来てしまったよ、おっかさん。

その年の11月に結婚したばかりの妻は日本に置いてきた。一緒に行くかと約束していたものの、全てがそううまくいくはずもなく、一人でフランスに来てしまった。後で思ったが、フランス滞在の初期は特にいろいろと大変だったため、一人で良かったかもしれない。

また違う部屋も紹介してもらったが今度は風呂はあるが電気がない。トイレの水は流れない。過酷だ。頭が痛くなってきた。

東京のタテルヨシノでの修行もかなりきつかった。ビストロイノッチという店を持った今でこそ色々な事が糧になつておと思う。今後も来て下さったお客様の方がその一日だけでも癒やされるなら僕は嬉しく思う。(ビストロイノッチオーナーシェフ)

その店はパリの西部16区のボージョレ・ドートイユという店名だった。後で日本人の知人に言

職場のオーナーの好意で住む部屋を借りられることになった。2畳くらいの屋根裏部屋で30cm角の窓が上の方に一応はあるが鉄格子もある。まるで牢屋だ。あると聞いていたベッドも布団もない。

また違う部屋も紹介してもらったが今度は風呂はあるが電気がない。トイレの水は流れない。過酷だ。頭が痛くなってきた。

また違う部屋も紹介してもらったが今度は風呂はあるが電気がない。トイレの水は流れない。過酷だ。頭が痛くなってきた。

また違う部屋も紹介してもらったが今度は風呂はあるが電気がない。トイレの水は流れない。過酷だ。頭が痛くなってきた。

職場のオーナーの好意で住む部屋を借りられることになった。2畳くらいの屋根裏部屋で30cm角の窓が上の方に一応はあるが鉄格子もある。まるで牢屋だ。あると聞いていたベッドも布団もない。

職場のオーナーの好意で住む部屋を借りられることになった。2畳くらいの屋根裏部屋で30cm角の窓が上の方に一応はあるが鉄格子もある。まるで牢屋だ。あると聞いていたベッドも布団もない。

職場のオーナーの好意で住む部屋を借りられることになった。2畳くらいの屋根裏部屋で30cm角の窓が上の方に一応はあるが鉄格子もある。まるで牢屋だ。あると聞いていたベッドも布団もない。

職場のオーナーの好意で住む部屋を借りられることになった。2畳くらいの屋根裏部屋で30cm角の窓が上の方に一応はあるが鉄格子もある。まるで牢屋だ。あると聞いていたベッドも布団もない。



中目黒駅近くのビストロイノッチ

激動の時代を生き抜いた半生を振り返って

近藤(安田)陸枝(高2)



昨春秋、関東あまたか会に初めて出席させていただきました。窓の皆様方

にお目にかかれ、またご活躍のお話をうかがい大変感激いたしました。このような楽しい時間をいただき、改めて感謝申し上げます。この度、思いがけず幹事の方から「私の半生」についての文章をとの御依頼がございました。93歳の人生の終末ですが、昭和の激動の時代を生き抜いて参りました私の経験を少しでも皆様のお心にとめていただくことができれば幸いです。

父の思い

昭和6年(1931年)12月29日という年末に、10人兄弟(兄6人、姉3人)の末子として小宮地(現新和町)に出生いたしました。本家は地主で分家の私どもとは違い別世界の大変豊かな暮らしで、幼少期の私には本家がお殿様のように見え、本家との格差(社会的、

資産的)に両親は苦勞しており、父は口惜しい思いもあつたようです。父は「子供たちに自分と同じ暮らしをさせないためには、天草という村社会から出なければ自由には活動出来る世界はなく、その為には学問を受けさせるしかない」と、大学に進学させる計画を立てたそうです。こうして子供たちに高等教育を受けさせることに両親は力を注ぎました。

後に、父が人生の終末に、「自分は親から受けた財産は少しも使わなかったが増やすこともできなかった。しかし、親より多くの子供を育て大学まで進学させる等、〈教育〉を残せたのが自分の財産だ」と述懐しておりました。両親ともに教育熱心で努力家でした。

長兄薫は旧制福岡高校から京都帝国大学、次兄優(ゆたか)は済々黌から陸軍士官学校へ進学と、子供の能力と希望を汲みながら、10人それぞれの高等教育に力を入れた両親でした。長兄は京都帝国大学でマルクス経済学者の河上肇教授の思想に影響されました。中国最初の国慶節にも招待され、出席いたしました。左右両方の思想を持つ息子達に父は苦悩したようです。三兄・祖龍(明德寺²³世住職)は、戦後熊本教育の発展に大きな功績を残しました。

二・二六事件と母

私の世代である昭和の64年間を考察いたしますと、前半の20年と後半の44年では、全く異なる歴史だと思えます。つまり、前半の20年間は激動と戦争、不安と飢餓、後半の44年間は天下泰平、自由と飽食の時代と、異なる歴史だったと考えられます。昭和5年には海軍による五・一五事件、支那事変、満州事変、二・二六事件(陸軍)と続き、次に日本という国の存続が危ぶまれた太平洋戦争と昭和20年まで戦時が続くなど、前半は歴史的にみて激動と混乱の時代だったといえます。

昭和11年(1936年)に二・二六事件が起こりました。私が物心ついた6歳頃のことでしたが、家中が大変な騒ぎになっておりました。次兄(安田優)が二・二六事件に参加しました。父が2月27日の朝、新聞を目にするると次兄が参加していると記事にあり大声で驚き、空気が一変いたしました。この事件で私の家族は大変な苦難に直面することになりました。次兄が最年少で上司の命で事件に参加。結果、死刑という重罪でした。両親の苦しみは言葉に表すことはできませんでした。その日を境に国賊として社会からは村八分状態になり、親戚からも絶縁すると伝達があり、完全に社会から孤立状態となりました。この社会的孤立状

態に陥った苦難な状況は終戦の昭和20年まで続きました。次兄は22歳の年少で死刑判決を受け、昭和12年7月12日に処刑されました。処刑が実行されるまで毎日、警察官が家の周りで監視しておりました。母の兄である伯父が、「家で小宮地から出ていくか、それとも一家で死んで欲しい」と言ってきました。その伯父に対して母は、「十本の指を一本だけ貴方は外に曲げられるか? 私はできません。十人の子供の中で私は一人も憎い子はいない。私はその十本の指をしっかりと握りしめて温め、その手で十人の子を温めてやることしかできない」と、泣きながら伯父に訴えていたことを当時から父に話していたことを当りなつた今でもしっかりと覚えております。この苦難の時代に遺された私達家族は、「お互い助け合い、また、理解していただける人々に感謝の心を持って生きるように」と、両親に教育されました。

戦時中の学校生活

天草の学生生活も苦難の連続でした。私は小学6年卒業と同時に本渡高等女学校に入学いたしました。通学が不可能だったので寄宿舎生活をいたしました。当時の女子の寄宿舎生活は実に厳しい毎日でした。室長が4年生で各学年が1〜2人で1室に7〜8人だった本渡高等女学校の模型の前で(天草高校訪問時、今年4月)

昭和20年代になりますと、戦争が激しくなり勉強どころか毎日竹槍の軍事訓練でした。食糧不足で学校も休校、自宅学習となりました。天草も空襲を受け、防空壕で夜を過ごすことが多くなりました。今でも忘れられないことがあります。十万山方面から米軍の飛行機が低空飛行で近づき、その飛行機から機銃掃射をする米兵の顔は皆、笑って



おりました。時の経過はあれど、いまだに脳裏から消え去ることのないおぞましい記憶です。学校も閉鎖され、男性は40歳前半の人々まで召集されたので、農家は人手不足でした。よって、学生はそれぞれの出身地での出征兵士の家の農作業の手伝いになり出され、みかん畑の草抜きや田んぼの草抜きの労働が戦後まで続きました。そして軍も燃料不足からガソリンの代替として松から燃料を取るようになり、松の根を掘る作業も課される日々の生活となりました。先生方も召集され、教員不足により同じ先生が生物、数学、物理など何科目も教えていました。

このように、昭和前半の学生生活を送った私たちの世代は勉強とはほぼ無縁で、学力をつけることのできない女学校時代でした。そして、私たち世代は歴史的にも激動の社会を生きた人生だと思つづく思います。

学校制度の変革

終戦と同時に学校もアメリカの教育制度に倣い、現在の小中高の6・3・3制度になり、同時に男女共学にもなりました。ちなみに、私は現在の新しい高校制度の2回生ですが、女学校の300人以上の同級生が共学になった時には30人前後の女子学

生しかいなかったかと思えます。大学も専門学校から大学になり、薬科大学も薬学専門の学校から薬大と、3年制から4年制になりました。私はその一回生となりました。国家試験も導入されました。この様に終戦後も明治以来の学校制度の変革に振り回された学校生活となりました。

改めて振り返ってみますと、昭和の前半に学生生活を送った私たちの世代は、学校制度改革の時期と重なったこともあり、内容的にみても学校教育が十分ではない時代でした。よって、社会に出て体験しながら知識を積み重ねつつ仕事をしてきた世代だと思います。

大学進学で東京へ

終戦後の女性は戦争で夫を亡くし、厳しい生活でした。多くの女性が子育てなどで大変苦労されました。戦後、社会で困難な状況に直面している沢山の女性の状況を見聞きした父は「兄弟の世話になつて窮屈な思いをしないように、そしてこれからの時代は女性でも技術を身に付け自立して生活するように生きていかねばならない」との考えから、私に薬科大学の進学を勧めました。私は医学を希望しましたが、10人兄妹の末娘で両親も既に高齢であったこともあり、医師になるには時間もかかり、また学費も大変との経済的理

由から薬剤師の道を勧められました。私自身も植物や化学に興味がありましたので、東京の薬科大学を受験いたしました。無事合格したので上京し、薬剤師の道に進むため4年制大学の一回生として薬科大学へ入学いたしました。

薬剤師として自立

4年制の薬科大学を卒業すると同時に薬剤師の国家試験制度も導入されたことから、最初の国家試験の受験生となりました。無事、国家試験に合格することが出来、東京女子医大の付属病院に薬剤師として就職いたしました。当時は結核が大流行で多くの若い人々が命を落とされました。残念ながら医薬品もなく、治療法も研究されていない時代でした。現代では製品として存在する「リンゲル」なども当時は薬品会社の製品として存在せず、全てを院内で数時間かけて薬剤師が調剤しておりました。その後、27歳で結婚しましたが、職業を離れることができず、30歳の時に現在の居住地に家を新築、併せて薬事法で決められた最小の面積の小さな薬局を自宅で開催いたしました。義母の介護もしながら3人の子育てをいたしました。63歳の時に閉店いたしました。70歳までは薬剤師という資格で現役薬剤師として働いてまいりました。

薬剤師として社会との接点を持つことにより時代の変化にも敏感になり、人々の思考、生き方など学ばせてもらいました。お陰様で視野が広くなり、社会の変動にも対応できたと思います。90歳を越えた今、現代社会の状況をみても、やはり、以前よりは女性を護る制度は充実しつつもまだまだ女性には厳しい場面がございます。そのためにも「資格」を持つことは生活の中で女性にとつては大変強みになるかと思えます。父の教えに感謝の日々でもございます。

現在の生活

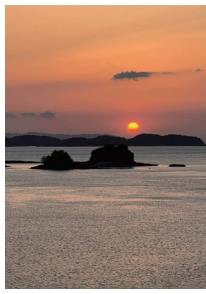
昨年、主人が95歳で他界いたしました。東京ではなかなか考えられないことですが、独りになった現在でも地域の人々の交流もあり、楽しい時間を過ごしております。人との出会いの大切さを終末になつて改めてしみじみ感じ、感謝の日々を送っております。

大学時代、NHKの朝の連続テレビ小説「らんまん」の主人公で日本の植物学の父といわれる牧野富太郎博士に植物学(薬草)を学びました。八ヶ岳、蓼科へも植物採集にも一緒に参り、沢山学ばせていただきました。その頃の興味尽きない躍動した青春時代の日々を思い出し、懐かしみながら、毎日草花と向き合い早朝の庭の手入れをしております。そして自宅

前の道の清掃、道行く近隣の若い方々との交流、趣味の鎌倉彫り等、充実した日常を送っております。こうした日々の自立した生活に感謝の毎日でございます。

30年ぶりに天草へ帰省

さて、今年の春に約30年ぶりに天草へ帰省いたしました。4月には天草の素晴らしい満開の桜が、5月には鮮やかな新緑が迎えてくれました。天草高校へも訪問いたしました。馬場純二前校長先生在任中に、芸術本である歌舞伎関係の本(300冊)を寄贈いたしました。人材は宝ゆえ、天草高校の若人の世界を広げる一助になれば、との願いから二年前に寄贈いたしました。本の表紙の画から日本を代表する画家が起用され、馬場校長も学生のために是非とも活用させていただきたい、とのお申し出でございました。ちょうど多摩美術大学からも「これだけの希少本がこれだけ揃っていることは貴重で、是非とも欲しい」とのお話もございましたが、馬場前校長から「近藤睦枝文庫を造り、学生が活用して未来に繋げてくれることを想像するだけでもわくわくします、有り難いことです。」とお手紙を頂戴し、私も快諾させていただきました。



美しい島々が連なる天草の風景(宿泊したホテルより)

最後
激動の時代を生き抜いた半生でした。戦後80年となりましたが、今後、歴史は繰り返されないう、実体験がない若い世代には尚更しつかり歴史を学んでいただきたい。そして、夢を見つけてその自己実現のために時を大事に刻んでいただきたい、と切に願う心境でございます。



明徳寺24世住職安田清文氏夫妻と(今年4月)

した。自然豊かな天草の風土ゆえ、なおさら天草高校の学生の皆さんの創造力を高め、世界を広げていただきたいものです。そのためにこれらの寄贈本が役立つことを切に願っております。

祝・受賞

「天草ふるさと文化賞」受賞の報告

一般財団法人東京天草育英会
理事長 園田峯生

関東あまたか会ならびに会員の皆様には、一般財団法人東京天草育英会(会)に対し、多くの御寄付、御支援をいただいております。心より感謝申し上げます。

この度、一般財団法人東京天草育英会は、天草文化協会(会長平井建治様)から、令和6年度「天草ふるさと文化賞」の顕彰を受けることになり、去る3月9日に天草市「ここらす」で開催された令和6年度天草文化賞等表彰式で表彰を受けました。

このような表彰を受けることができたのも、ひとえに皆様から継続的な御支援を受けて、関東における天草出身の大学生への奨学金給付活動を行っていることに對する荣誉であります。

御案内のとおり、天草文化協会は、天草の文化活動を支援し、その広報誌、機関誌である「南風」や「潮騒」の発行、講演会の開催などを行うなど、天草の文化活動のリーダー的な役割を果たされている団体です。

また、東京天草育英会は、昭和14年に荅北町出身の田付貞明



令和6年度天草文化賞等の表彰者たち
右端が東京天草育英会理事長

様が、天草から関東に進学する学生のために寄贈した寮(杉並区荻窪所在の土地・建物)を老朽化のため昭和34年に売却した代金や当時の天草出身者の皆様からの寄付を基本財産として昭和39年に創立された財団法人(平成26年に一般財団法人に移行)であり、天草から関東に進学する大学生を支援し、将来の日本、天草を担う若人を応援する育英法人です。奨学生OBの中からは、天草や熊本に戻り、郷里で活躍する若者も誕生していますし、また将来、天草のために役立ちたいと夢をもっている奨学生がいます。今回の顕彰を受け、皆様の更なる御力添えを得て、今後も天草出身の若人の支援を継続できるように力を合わせて参ります。東京天草育英会にとつて明るい話題でもあり、皆様に報告させていただきますました。なお、当育英会ではホームページを開設しておりますので、御高覧願えれば幸いです。

私は「目標を掲げて生きる」を意識して、今は「元気に90歳迄生きる」を掲げています。目標を掲げると日常の行動が具体化してきます。具体策として①適度な運動をする、②食事に気をつける、バランスと量



岩崎 定義(高12)

私の楽しみ enjoy
趣味 hobby
活動 activity

楽しい余生を歩く

皆さんようこそ。この度誌上を通じ皆さん方に再びお会いできたこと、とても嬉しく思います。

お陰様で無事元気に83歳を迎えることができました。元気に生きるにはどうするか?体の仕組みを理解し意識的にサポートする。私の年齢になると、既に男性の6割の方が亡くなり、残った人の3割は認知症。又、同年代の人の年間医療費は90万円を超え国民年金を超える医療費を使っています。寿命は毎年延びているが、多額な医療費が必要な余生です。人の毛細血管は髪の毛の1/10の太さで総延長は約10万km、地球の2回り半の長さ。全身に血液を円滑に送るには適度の運動とバランスの良い食事が大事ではないでしょうか。

天草高校OBの皆様や天草出身者の皆様の御寄附により、昨年度も天草高校卒業生6名の学生に奨学金を給付することができました。ご協力に感謝申し上げます。

皆様からの心のこもった御寄附金が若者の手助けとなっています。ありがとうございます。

1,000円から
何口でも結構です

郵便局に備え付けの払込取扱票に、東京天草育英会の口座記号・口座番号(00100-4-362127)を、そして加入者名の欄に「一般財団法人 東京天草育英会」とお書きください。

一般財団法人 東京天草育英会 理事長 園田峯生

☎ 03-6261-5598 URL <http://amakusa-ikueikai.com>

〒102-0093 東京都千代田区平河町2-5-7 ヒルクレスト平河町501号

③趣味を楽しむ、④周りとの交流する等です。その結果、私の医療費は年齢平均の1/10以下で残りの90%は社会に還元しています。私が目標を掲げて生きる事の大切さを感じたのは入社した会社の



花に言葉をかける
藤田 和治(定時)

高校を卒業し、就職してから今年3月末まで64年間働き、退職しました。今



会社の功労賞(銀賞)

創業者の社長が「私は世界一の部品メーカーになりたい、君達も頑張るって欲しい」の言葉でした。毎日の様に世界一の製品を生み出す事に集中し、4〜5年経過した時そのチャンスに恵まれました。周りの協力にも恵まれ、ダントツの世界一の製品が完成し、多忙な時は一週間で世界一周してその拡販にも一役務めました。社内的には実用新案や業績でも評価され、関係業者は大型商談になり、何度か芸者付きのお祝いにも招待され、檜舞台で活躍している感じでした。皆さん方も現役時代は自分のベストを尽くして社会の発展に貢献し、リタイア後は健康に留意して楽しい余生を送って下さい。



金柑は甘露煮に



バラは近所の人も写真を撮りに

は趣味の園芸と早朝1時間の散歩、2ヶ月に1回の友人達とのカラオケを楽しんでいます。その他娘と孫時々近所の子供達の自転車整備とパルク修理をやっています。昨日は孫の自転車のタイヤとチューブを交換し、娘から褒められ、ビールの差し入れがあつて嬉しい一日でした。女房が畑作りを希望していたので60才の1回目の退職後庭付きのマンションを購入し、野菜と花作りを20年以上続けています。春はキュウリ、トマト他、一番力を入れているのは5月のゴーヤです。毎年80本位の収穫があり近所の方に差し上げています。果物はみかんと金柑、花は盆栽のサツキ、紫陽花、ハイビスカス他、11月は菊畑に2000本位が咲きます。5月のバラは最高です。野菜達にはありがとうと言い、花が咲き終わると来年もきれいに咲いてねと言葉をかけています。

天草高校便り

体育大会を終えて

生徒会副会長 上口 絵麻



5月の空が気持ちよく晴れ渡り、例年にも増して暑さを感じる季節となりました。そんな中、私たちは記念すべき第80回体育大会を、雲一つない晴天のもとで迎えることができました。

マスゲームでは、入学して間もない1年生が、2・3年生の先輩たちの姿に励まされながら、一生懸命に天高体操を披露しました。また、2・3年生によるダンスでは、学年ごとの個性あふれる演技が披露されました。その姿からは、天高生の躍動感があふれ出し、ご来場いただいた保護者や地域の皆様にも大きな感動を届けることができたのではないかと思います。さらに、今年度からは新たに男子による「竹取物語」が加わり、天高生による熱い戦いが繰り広げられ、大会に新たな彩りを加えてく

れました。私自身、特に印象に残っているのは、3年生による応援団演舞です。朝や放課後、さらには休日にまで及んだ練習の集大成として披露されたその演舞には、見る者の心を揺さぶる力がありました。来年度、いよいよ3年生となる私たちは、その姿を見て大きな使命感を抱くことができました。閉会式では、天高生としての誇りと高校生としての青春を胸に、校歌を斉唱しました。その歌声は学校の枠を超え、地域の方々の心にも響き、体育大会の盛り上がり象徴するものとなりました。

最後になりますが、本大会の開催にあたりご尽力いただきました先生方、保護者の皆様、そして地域の皆様に心より感謝申し上げます。これからも天草高校のさらなる発展を目指し、生徒一丸となって邁進してまいります。



天草便り

西田 勝年(高12)

国立公園70周年に向けて

2026年7月20日には雲仙天草国立公園の「天草地域」指定(1956年)から70年になります。天草では70周年を迎えるにあたっての取り組みがすすめられています。

●天草市では風光明媚な自然景観を継続して保護していくという機運を高め、改めてその魅力を感じてもらうため、雲仙天草国立公園天草地域のテーマソングともいえる「天草小唄」のメロディを市内全域の防災無線で、昨年の7月20日から毎日午後6時に時報として放送されました。他の自治体、上天草市、

苓北町においても同様「天草小唄」のメロディが流されています。

●天草がもっと親しまれる国立公園となるためのシンポジウム開催(2025.2.2)。VISITあまくさプロジェクト実行委員会(熊本県天草広域本部、上天草市、天草市、苓北町、各観光協会など)主催、上天草市松島総合センターにて。参加者200名超。天草の魅力をいかに高めていくか、国立公園としての価値を観光振興・地域づくりにどのように生かしていくのかを語りあいました。

白鶴浜(高浜)



ご理解・ご支援・ご協力を賜り、誠にありがとうございます

令和7年度年会費を納入された会員の皆様(7月31日現在)

Table listing members who have paid the 2025 annual fee by July 31st. Columns include member ID, name, and age.

令和7年度年会費に加えて、ご寄附を賜りました会員の皆様

Table listing members who have also made a donation in addition to the 2025 annual fee.

今年度までに令和8年度年会費を納入された会員の皆様

Table listing members who have paid the 2026 annual fee by the end of this year.

お名前記載漏れや間違いがありましたら、事務局までお知らせください。

当会の振替口座は以下の通りです。

- 1. ゆうちょ銀行から振り込む場合
・口座記号番号: 00180-6-487424
・口座名義: 関東あまたか会
2. 他の銀行から振り込む場合
・銀行名: ゆうちょ銀行
・口座名義: 関東あまたか会
・店名(店番): ○一九(ゼロイチキュウ)店(019)
・預金種目: 当座
・口座番号: 0487424

令和7年度(2025年度)会費等 払込みのお願い

年会費は2,000円です。払込みには同封の赤い払込取扱票をご利用ください。手数料無料となります。払込取扱票には住所、氏名、卒回を記載してください。なお、上記に名前記載ある方は既に納入済みです。払込みは必要ありません。

Club Akai advertisement featuring a drink image, contact info (TEL: 03-3573-3994), and address (銀座8丁目).

天草市ふるさと応援寄附金

ふるさとへの想いを大切にしながら、全国でご活躍されている皆さま。是非、「ふるさと納税」という応援スタイルで、「ふるさと天草」を元気にするための、まちづくり・人づくりを応援してください。



お申込み・お問合せ先

天草市ふるさと納税サポート室
電話: 050-5444-6448(土日祝除く9時~18時)
メール: support@amakusa.furusato-ig.jp

特設サイト

特設サイトから直接寄附いただく、会員価格でご寄附いただけます。



天草市の魅力的な返礼品をお届けします!

厳選したこだわりの逸品「定期便」



2025(令和7)年度 関東あまたか会総会・友好の集いのご案内

関東あまたか会は あんたん会ばい 友達ば連れて来んね

天草ん懐かししか食べ物ば取り寄せて 販売すつとよ

- 1 日時: 2025年11月1日(土) 12:00~15:00 (受付開始 11:30)
- 2 場所: スクワール麹町3階「錦華」千代田区麹町6-6 ☎03-3243-8739
JR中央線・総武線四ツ谷駅下車 麹町口の目の前 徒歩1分 (会場に駐車場はありません)
東京メトロ丸の内線・南北線四ツ谷駅からも行けます。
- 3 会費: 会員7千円、介護者付添いの場合2人で1万3千円、30歳未満会員3千円、学生・小学生無料
- 4 ご出欠のお返事は、同封の返信用葉書に必要事項を記入の上、10月4日(土)までにお送りください。ご出欠の返信後に変更が生じた場合、10月27日(月)12時まで、事務局長・松野明久(下記)までご連絡ください。それ以後のキャンセルについては食事代4千円を後日お支払いいただきます。

プログラム(予定)

- 総会 12:00-12:45
- 記念写真撮影 12:45-13:00
- 友好の集い 13:00-15:00
 - 自己紹介・近況報告
 - 長寿の祝い(還暦・古希・喜寿・傘寿・米寿・卒寿)
 - みんなで踊ろう(牛深ハイヤ節)
 - みんなで歌おう(ふるさと、校歌斉唱)



イラスト: 中京支部 吉田和美(高17)

天草物産品販売

あじみりん干し、手作り団子、塩あんもち、辛子れんこん、乾燥わかめ、あおさ、天然塩などを販売する予定です。ご希望の天草物産品がありましたら、返信用葉書にてお知らせ下さい。

連絡先: 事務局長 松野明久
〒160-0007 東京都新宿区荒木町10-30-501
☎090-3272-4383 Email: akimatsuno@mac.com



(左) 昨年の総会での物産品販売。この日のために天草から特別に取り寄せました。人気があつてんでこまいでした。



(右) 昨年の総会で似顔絵を描いた吉田さん(高17)と似顔絵を描いてもらった近藤さん(高2)と堀さん(高4)。

編集後記

これまで故松尾和幸会長が会報の編集・レイアウトをしていました。後を継いだものの、編集ソフトが異なるため苦労しました。今までの会報と違う点、うまくできていない点があれば、お許しいただきたいと思っております。

8月の大雨は天草にもたいへんな被害をもたらしました。さらには猛暑の中の復旧作業。被害に遭われた方々には心よりお見舞い申し上げます。一日も早く暮らしが再建されることを願っています。(ま)

高20	高17	高17	高16	高16	高16	高11	高10	高9	高9	高9	高9	高8	高女
有働	吉永	沖田	松尾	金子	園田	松本	船田	山内	深川	益田	江越	尾田	木村
(令和6年7月)	(令和6年8月)	(令和6年1月)	(令和7年3月)	(令和7年1月)	(令和6年10月)	(令和2年逝去)	(令和7年2月)	(令和4年10月)	(令和6年9月)	(令和7年1月)	(令和5年8月)	(令和4年)	(光延) 郁子
東雄	政昭	久輝	和幸	和生	達彦	(赤崎) 紀子	紀年	楸司	信哉	幸太郎	勲	為人	(高4年)

今年1月からこれまでにご逝去のお知らせをいただいた方々です。

訃報のお知らせ